

山の歌集 一 目次

藤井明

- | | | |
|----------------------|-----------------|-----------------|
| <1> 彷徨(ほうろう)の歌 | <2> 銀座のチムニー | <3> アルプの歌 |
| <4> 広島高師山岳部部歌 | <5> 山の大神 | <6> 守れ権現 |
| <7> 正調 山男の歌 | <8> エーデルワイスの歌 | <9> アルプス一万尺 |
| <10> 赤いサラファン | <11> 雪の降る町を | <12> 山賊の歌 |
| <13> いつかある日 | <14> シーハイルの歌 | <15> 新人哀歌 |
| <16> フニクリ・フニクラ | <17> 雪山讃歌 | <18> スキーの歌 |
| <19> 山女の哀歌 | <20> ヒュッテの夜 | <21> 山の友によせて |
| <22> 夏の思い出 | <23> トロイカ | <24> 可愛いあの娘 |
| <25> 一日の終り(星影牙やかに) | <26> 北帰行 | <27> 山小舎の灯 |
| <28> アルプス一万尺 | <29> 安曇節 | <30> 木曾節 |
| <31> かあさんの歌 | <32> もずが枯れ木で | <33> 惜別の歌 |
| <34> わが山小屋 | <35> 心の窓に灯をの替え歌 | <36> うるわし春よ |
| <37> Red rier valley | <38> レドリバーヴァレリー | <39> 五木の子守歌 |
| <40> わが山の家 | <41> かみともにいまして | <42> しゃれこうべと大砲 |
| <43> アルペン数え唄 | <44> [山の歌] | <45> おおブレーネリ |
| <46> 岳人の歌 | <47> 知床旅情 | <48> 瀬戸の花嫁 |
| <49> 竹田の子守歌 | <50> 旅の歌 | <51> 人を恋うる歌 |
| <52> 山の日 | <53> 山の人気者 | <54> エレメンタール美わし |
| <55> 雪山に消えたあいつ | <56> 若者たち | <57> 若い力 |
| <58> 五番街のマリーへ | <59> 遥かな友に | |

山の歌集

< 1 > 彷徨（ほうろう）の歌

作詞／不詳・作曲／不詳

1. そんなにお前はなぜ嘆く
草のしとねに寝ころんで
私の云う事お聞きあれ
人の浮世の見栄を捨て
2. 口笛吹いて気をはらせ
うつつの夢を見ていやれ
くたびれ休みに山を見て
腹がへったらまた歩け

< 2 > 銀座のチムニー

天応ロックハイツの歌

作詞、作曲 増永道雄

銀座のチムニー 背中がが滑るよ
クロなめらは 足が滑るよ

どんがめ岩で 昼寝をすれば
瀬戸の島々 波は静か

ここに 挑む我らは
広大アルパインクラブ部の
わかめのズボン

オーオーオーオオ
我らは日本一の山男
ヒマラヤを目指す

< 3 > アルプの歌

ロシア民謡

1. 嬉しい歌 悲しい歌
沢山聞いた中で
※忘れられぬ一つの歌
それはアルプの歌
(※くり返し)
2. 雨の中で 風の中で
元気づけてくれる
※力強く男らしい
それはアルプの歌
(※くり返し)
3. 谷を渡り 尾根を越えて
遠くこだまする夜
※今も胸によみがえる歌
それはアルプの歌
(※くり返し)
4. 苦しい時 疲れた時
空行く雲 眺めて
※声高らかに友よ歌わん
それはアルプの歌
(※くり返し)

< 4 > 広島高師山岳部部歌

原曲／ 「坊がつる讃歌」
作詞／神尾明正・松本征夫
作曲／竹山仙史

同じ山への 憧れを
胸に抱いて 行く道は
教えの道ぞ 山男
広島高師の山男

1. 人みな花に 酔うときも
残雪 恋し 山に入り
涙をながす 山男
雪解の水に 春を知る
2. ミヤマキリシマ 咲き誇り
山くれないに 大船の
峰を仰ぎて 山男
花の情を知る者ぞ
3. 四面山なる坊がつる
夏はキャンプの 火を囲み
夜空を仰ぐ 山男
無我を悟るはこの時ぞ
4. 出湯の窓に 夜霧来て
せせらぎに寝る 山宿に
一夜を憩う山男
星を仰ぎて 明日を待つ

< 5 > 山の大尉

作曲 イタリア民謡
訳詞 牧野 文子

1. 山の大尉は傷ついた
部下の山岳兵達に
もう一度ここで逢いたいと
息たえだえに言づけた
2. 山岳兵は言づけた
靴がないので歩けない
靴を履いても履かんでも
山岳兵に逢いたいと
3. 陽はさし昇る山の朝
山岳兵は訪れた
大尉殿 なんの命令です
我らはここに着きました
4. 私の体を五つに
切ることを命じます
その一つを皇帝に
命を捧げた思い出に
5. 二つ目のそれを連隊に
過ぎた日のしるしに
三つ目のそれは母に
息子の兵の思い出に

< 6 > 守れ権現

作詞／北原白秋
作曲／中山晋平

1. 守れ権現 夜明けよ霧よ
山は命の 襖（みそぎ）場所
2. 行けよ荒くれ どんと登れ
夏は男の 度胸だめし
3. 何を奥山 道こそなけれ
水も流るる 鳥も鳴く
4. 馬子は追分 木樵は木遣り
朝は据野の 放し駒
5. 雪の御殿に 光のいわや
滝は千丈の 逆おとし
6. さあさ火を焚け ごろりとままよ
木の、根枕に 嶺の月
7. 風よ吹け吹け 笠吹き飛ばせ
笠は紅緒の 荒むすび
8. 雨よ降れ降れ ざんざとかかれ
肩の着ゴザも 伊達じゃない

5. 石楠花谷の三俣山
花を散らしつ藪分けて
湯沢に下る山男
メランコリーを知るや君

6. 深山紅葉に初時雨
暮雨滝の水音を
佇み聞くは山男
もののあわれを知る頃ぞ

7. 町の乙女等思いつつ
尾根の処女雪蹴立てつつ
久住に立つや山男
浩然の気は云いがたし

8. 白銀の峰思いつつ
今宵湯宿に身を寄せつ
闘志に燃ゆる山男
夢に九重の雪を蹴る

9. 三俣の尾根に霧飛びて
平治に厚き雲は来ぬ
峰を仰ぎて山男
今草原の草に伏す

同じ教えの 道をゆき
瞼に浮かぶ 山のみち
路はひとつぞ 山男
広島高師の山男

6. 四つ目のそれは愛人へ
我が初恋の思い出に
最後のそれは山へ
バラで山を覆うため

9. 山は百万石 木萱の波よ
木萱越ゆれば お花畑

10. 夢にや鈴蘭 谷間の小百合
酒の肴にや 山鯨

11. 守れ権現 鎮まれ山よ
山の男の褌（みそぎ）場所

12. 雲か空かと 眺めた山も
今じゃわしらが 眠り床

< 7 > 正調 山男の歌

作詞／神保信雄

作曲／黒木惇而 採譜

1. 娘さんよく聞けよ
岳人にやホれるなよ
山で吹かれりゃよ
若後家さんだよ
＜繰り返し＞
2. 娘さんよく聞けよ 岳人の好物はよ
バテたオカユとよ
ショウチュウなんかよ
＜繰り返し＞
3. ザイルたぐって 頂踏めばよ
交わす握手によ 血汐が通うよ
＜繰り返し＞
4. 登頂終りの
ヤッチョーがひびけばよ
今の苦労も どこ吹く風だよ
＜繰り返し＞
5. 登頂終って シュラフの夢はよ
可愛いあの娘の 片えくぼよ
＜繰り返し＞
6. あの嶺越えれば 明日は帰りかよ
鬼の住む街へ 帰る悲しさ
あの娘住む街へ 帰る嬉しさ

< 8 > エーデルワイスの歌

作詞／菅沼達太郎

作曲／法政大学山岳部

1. 雪は消えねど 春はきざしぬ
風はなごみて 陽はあたたかし
氷河のほとりを すべりて行けば
いわかげにさく アルペンプルーム
紫におう みやこをあとに
山にあこがれ若人のむれ
2. エーデルワイスの花ほゝえみて
鋭き岩角 金色にてり
山は目覚めぬ 夏の朝風
乱雲おさまり 夕空はれぬ
生命のザイルに 我が身をたくし
思わずあおぐ アルペングリュエーン
3. 星かけさやかに 空すみわたり
葉ずえの露に 秋たちそめぬ
金と銀とに よそおいこらし
女神のごとき しらかばの森
くれない燃ゆる 山より山へ
ゆくえも知らず さすらいゆかん
4. 吹雪は叫び たそがれせまり
求むる小屋の ありかも知れず
ああこの雪山 ちょうちょうとして
シーロイファー ゆくてをとぎす
ああこの雪原 寂ばくとして
寒月するどく シュプール照らす

< 9 > アルプス一万尺

作詞／不詳

アメリカ民謡

1. アルプス一万尺小槍の上で
アルペンおどりを
さ おどりましょ
※ランララララララ
ランララララララ
ランラララララララ
ランランランラン
2. お花畑で昼寝をすれば
蝶々が飛んできて キスをする
※くり返し
3. 一万尺にテントを張れば
星のランプに手がとどく
※くり返し
4. 槍や穂高はかくれて見えぬ
見えぬあたりが槍穂高
※くり返し
5. 岩魚釣る子に山路を聞けば
雲のかなたを竿でさす
※くり返し
6. ザイルかついで穂高の山へ
明日は男の度胸だめし
※くり返し

5. ああ玲瓏の 雪の高嶺に
こころ静かに 頂きに立ち
とおとぎ山の 教えを受けん
身も魂も けがれは消えて
とわにかがやく 白光のうちに
清き幸をば 求めうるらん

7. まめで逢いましょ
また来年も 山で桜の咲く頃に
※くり返し

<10> 赤いサラファン

ロシア民謡

赤いサラファン ぬってみても
楽しいあの日は 帰りやせぬ
たとえ若い娘じゃとて
なんでその日が長かろう
燃えるようなその頬も
今にご賢よ 色あせる
その時きっと思い当たる
笑うたりしないで母さんの
言っとく言葉をよくお聞き
とはいえサラファンぬうていると
お前と一緒に若返る

<11> 雪の降る町を

作詞／内村直也

作曲／中田喜直

1. 雪の降るまちを 雪の降るまちを
思い出だけが 通りすぎて行く
雪の降るまちを 雪の降るまちを
遠いくにから落ちてくる
この思い出を この思い出を
いつの日か包まん
たたかき幸せのほほえみ
2. 雪の降るまちを 雪の降るまちを
あしおとだけが 追いかけて行く
雪の降るまちを
一人こころに満ちてくる
この哀みを この哀みを
いつの日かほぐさん
緑なす春の日のそよ風
3. 雪の降るまちを 雪の降るまちを
息吹とともに こみあげてくる
雪の降るまちを
誰もわからぬわが心
このむなしさを このむなしさを
いつの日か折らん
新しき光降る鐘の音

<12> 山賊の歌

作詞／たじまひろし

作曲／小島祐嘉

編曲／土橋茂 子

1. 雨が降れば 小川ができ
風が吹けば 山ができる
ヤッホーヤホホホ
淋しいところ
ヤッホーヤホホホ
淋しいところ
2. 夜になれば 空には星
月が出れば おいらの世界
ヤッホーヤホホホ
みんなを呼べ
ヤッホー ヤホホホ
みんなを呼べ

< 13 > いつかある日

詞／ロジェ・デュプラ

訳詞／深田久弥

作曲／西前四郎

1. いつか或る日 山で死んだら
古い山の友よ 伝えてくれ
2. 母親には 安らかだったと
男らしく死んだと 父親には
3. 伝えてくれ いとしい妻に
俺が帰らなくとも 生きて行けと
4. 息子たちに 俺の踏跡が
故郷の岩山に 残っていると
5. 友よ山に 小さなケルンを
積んで墓にしてくれピッケル立てて
6. 俺のケルン 美しいフェイスに
朝の陽が輝く 広いテラス
7. 友に贈る 俺のハンマー
ピトンの歌う声を 聞かせてくれ

< 14 > シーハイルの歌

五所川原農林高校スキー部部歌

作詞／林せい次郎

作曲／鳥取春陽

1. 岩木のおろしが吹くなら吹けよ
山から山へと我等は走る
昨日は梵珠嶺今日また阿じゃ羅
煙立てつゝおおシーハイル
2. ステップターンすりゃ
たわむれかかる
杉の梢の未練の雪よ
心は残れどエールにとどめ
クリスチャニアでおおシーハイル
3. 夕日は赤々シュプール染めて
たどる雪道果てさえ知れず
街にはちらほら灯がついた
ラッセルいそげやおおシーハイル

< 15 > 新人哀歌

作詞 作曲／不詳

1. いいぞいいぞと おだてられ
死に物狂いで 来てみれば
朝から晩まで 飯たきで
景色なんぞは 夢のうち
2. チーフリーダーは 爺くさい
サブリーダーは 婆くさい
あとのメンバーは エロくさい
メツチェン通れば 頭右
3. 二年部員は 小生意気
先輩なにかと 話好き
地獄の二丁目 山岳部
好んで入る 馬鹿もいる
4. 蝶よ花よと 育てられ
何の苦労も 知らないで
ボッカ稼業に 身をやつし
泣き泣き登る 雪の山
5. 家へ帰れば お坊っちゃま
山へはいれば 新部員
何の因果で しごかれる
まぶたに浮かぶ 母の顔
6. いわゆるアノコはお嬢さま
おれはしがない 山がらす
月を眺めてあきらめる
笑ってくれるな お月様

<16> フニクリ・フニクラ

作詞／青木爽・清野協(共訳)

作曲／デンツァ

1. 赤い火を噴くあの山へ 登ろう 登ろう
そこは地獄の釜の中 のぞこうのぞこう
登山電車が出来たので 誰でも登れる
流れる煙は招くよ みんなを みんなを
行こう行こう火の山へ
行こう行こう山の上
フニクリ・フニクラ フニクリ・フニクラ
誰も乗るフニクリ・フニクラ
2. 暗い夜空に赤々と 見えるよ 見えるよ
あれは火の山ベスビアス
火の山 火の山
登山電車が降りてくる
ふもとへ ふもとへ
燃える焔は空に映え輝く 輝く
行こう行こう火の山へ
行こう行こう山の上
フニクリ・フニクラ フニクリ・フニクラ
誰も乗るフニクリ・フニクラ
3. 行こう行こう火の山へ
行こう行こう山の上
フニクリ・フニクラ フニクリ・フニクラ
誰も乗るフニクリ・フニクラ

<17> 雪山讃歌

作詞／西堀栄三郎

作曲／モントローズ

1. 雪よ岩よ われらが宿り
俺たちや 町には住めないからに
2. シールはずして パイプの煙
輝く尾根に 春風そよぐ
3. 煙い小屋でも 黄金の御殿
早く行こうよ 谷間の小屋へ
4. テントの中でも 月見は できる
雨が降ったら ぬれればいいさ
5. 吹雪の日には 本当に辛い
ピッケル にぎる手がこごえるよ
6. 荒れて狂うは 吹雪か雪崩
俺達 そんなもの 恐れはせぬぞ
7. 雪の間に間に きらきら光る
明日は のぼろよ あの頂に
8. 朝日に輝く 新雪ふんで
今日も行こうよ あの山こえて
9. 山よサヨナラごきげんよろしゅう
又来る時にも 笑っておくれ

<18> スキーの歌

作詞／時雨晋羽

作曲／平井康三郎

1. 山は白銀 朝日を浴びて
滑るスキーの 風切る速さ
飛ぶは小雪か 舞い立つ霧か
おおこの身も かけるよかける
2. 風をつんざき 左へ右へ
飛ばば踊れば 流れる斜面
空は緑よ 大地は白よ
おおあの丘 我らを招く
3. 真一文字に 身を踊らせて
さっと飛び立つ 飛鳥の翼
グーンと迫るは 麓か谷か
おおお楽しや 手練の飛躍

< 19 > 山女の哀歌

作詞 作曲／不詳

1. 腰のハンマーにすがりつき
つれていきゃんせ谷川へ
連れていくのはやすけれど
女にや登れぬ一の倉
2. 女登れぬ山なれば
長い黒髪断ち切って
岳人姿に身をやつし
ついていきますどこまで
3. 無理はおよしよお嬢さん
ダンスパーティじゃあるまいし
命賭けたる岳人の
まねができようはずがない
4. 命賭けるといふけれど
山が命のあなたなら
恋が命のこのわたし
ついていきますどこまで
5. そんなにおまえがいうのなら
雪の穂高や剣でも
ついていきますどこまでも
ほんとにほんとにほんとにごくろうさん

< 20 > ヒュッテの夜

作詞 深田 久弥

作曲 高木 東六

1. 雪の青さを 透かす窓
湯気に凍った花ガラス
ぬくめた指で字を書けば
そこから融けて跡もなく
耳を澄ませみちかたに
なるもののあり 心かよ
2. おや なんの音 雪崩かと
我にかえれば のきばから
部屋のぬくみに融かされて
雪とつららの落ちた音
ストーブの湯も沸いたから
お茶を飲み飲み話そうよ
3. つのる風雪に目が覚めて
誰か呼んでる叩いてる
山の精だと脅されて
かかぐ布団のあたたかさ
冬のヒュッテの夜更け時
よんでいたのは夢かしら

< 21 > 山の友によせて

作詞・作曲／戸田豊鉄

1. 薪割り飯炊き小屋掃除
みんなでみんなでやったっけ
雪解け水が冷たくて
苦労したことあったけ
今では遠くみんな去り
友を偲んで仰ぐ雲
2. 前傾外傾全制動
みんなでみんなでやったっけ
雪が深くてラッセルに
苦労したことあったけ
今では遠くみんな去り
友に便りの筆をとる
3. 落葉松燃ゆる春山に
みんなでみんなで行ったっけ
思わぬ雪にワカン履き
苦労したことあったっけ
今では遠くみんな去り
友の姿を夢に見る

< 2 2 > 夏の思い出

作詞／江間章子

作曲／中田喜直

1. 夏がくれば思い出す 遥かな尾瀬遠い空
霧の中に浮かびくる 優しい影野の小道
水芭蕉の花が咲いている
夢みて咲いている水の畔り
石楠花いろにたそがれる
遥かな尾瀬遠い空
2. 夏がくれば思い出す 遥かな尾瀬野の旅よ
花の中にそよそよと ゆれゆれる浮島よ
水芭蕉の花が匂っている
夢みて匂っている
水の畔り まなこ
つぶればなつかしい
遥かな尾瀬遠い空

< 2 3 > トロイカ

ロシヤ民謡

詩 楽団カチューシャ

1. 雪の白樺並木
夕日が映える
走れトロイカほがらかに
鈴の音高く
2. 響け若人の歌
高鳴れバイヤン
走れトロイカ軽やかに
粉雪蹴って
3. 黒い瞳が待つよ
あの森越せば
走れトロイカ今宵は
楽しいうたげ

原曲の直訳

- 1 走るトロイカひとつ [雪のヴォルガ](#)に沿い
はやる馬の手綱取る 馭者の歌悲し
- 2 何を嘆く若者 たずねる年寄り
何故にお前は悲しむ 悩みはいずこ
- 3 去年のことだよおやじ 好きになったの
は [そこへ地主](#)の奴めが 横槍を入れた
- 4 [クリスマス](#)も近いに あの娘は嫁に行く
金につられて行くな ろくな目にあえぬ
- 5 鞭持つ手で涙を 馭者はおし隠し
これでは世も末だと 悲しくつぶやく

< 2 4 > 可愛いあの娘

インドネシア民謡

1. 可愛いあの娘は誰のもの

可愛いあの娘は誰のもの
可愛いあの娘は誰のもの
いえあの娘はひとりもの

<以下際り返し>

カタツムリはどこから 川から田圃へ
恋人はどこから 目から心へ
ノーマニサパ ヤンプーニャ
ノーマニサパ ヤンプーニャ
ノーマニサパ ヤンプーニャ
ラササーヤ サーヤゲン

2. 可愛いあの娘の片えくぼ
ちよいと突いて袖引いて
寄子の木陰のランデヴー
おや頭に実が落ちた

3. 可愛いあの娘は誰のもの
可愛いあの娘は誰のもの
可愛いあの娘は誰のもの
いえあの娘は僕のもの

いえあの娘は僕のものブンブン
いえあの娘は僕のものブンブン
いえあの娘は僕のものラッサ

< 2 5 > 一日の終り (星影牙やかに)

フランス古謡

作詞／串田孫一

1. 星影牙やかに 静かに更けぬ
集いの喜び 歌うは楽し
2. 燃えろよ燃えろよ 炎よ燃えろ
火の粉を巻き上げ 天までこがせ
3. 照らせよ照らせよ 真昼の如く
炎よ渦まき 暗夜をこがせ
4. 燃えろよ照らせよ 明るくあつく
光と熱との 元なる炎
5. 名残りはつきねど まどいは果てぬ
今日のひと日の幸 静かに思う

< 2 6 > 北帰行

作詞者・作曲者：宇田博

(旅順高等学校寮歌)

1. 窓は夜露に濡れて
都すでに遠のく
北へ帰る旅人一人
涙 流れてやまず
2. 夢はむなしく消えて
今日も闇をさすらう
遠き思い はかなき希望
恩愛 我を去りぬ
3. 富も名誉も恋も
遠きあこがれの日ぞ
淡きのぞみ はかなき心
栄光我を去りゆく
4. 我は黙して行かん
何をかまた語らんや
さらば父母よ ふるさとよ
明日は異郷の旅路
5. 我は 黙してみたり
何をか また語るべき
晩の ストラグルの凄まじさ
飯は 我に回らず

< 2 7 > 山小舎の灯

作詞：米山正夫(C)

作曲：米山正夫

1. 黄昏の灯はほのかにとりて
懐かしき山小舎は 麓の小径よ
思い出の窓により 君を偲べば
鳳は過ぎし日の歌をばささやくよ
2. 暮れいくは白馬か穂高はあかねよ
樺の木のほの白き 影もうすれいく
淋しさに君呼べど 我が声むなしく
ほるか谷間より こだまはかえり来ぬ
3. 山小舎の灯は 今宵もとりて
一人聞くせせらぎも 静かに更け行く
憧れは若き日の 夢を乗せて
夕べ屋のごと みそらに群れ飛ぶよ

<28> アルプス一万尺

(作詞：小林利秋)

1. アルプス一万尺 小檜の上で
アルペン踊りを踊りましょ へイ
(以下繰り返し)
ララララララ ララララララ
2. お花畑でヒルネをすれば
蝶々が飛んできてキスをするへイ
3. 一万尺にテントを張れば
星のランプに手が届く へイ
4. チンネの頭にザイルをかけて
パイプふかせば雲がわく へイ
5. さあさあ聞きよ 緑男児は
粋でおしゃれでファイトマン へイ
6. 緑のザックに惚れない娘は
オシカツンポかあきメクラ へイ
7. アルプス良いとこ一度はおいで
トザイトザイの声がする へイ
8. 唄うハーケン ひびくヨーデル
岩は男の度胸試し へイ
9. つらいビバーク マプタを閉じりゃ
可愛いあの娘の夢を見る へイ

<29> 安曇節

1. 寄れや寄ってこい安曇の踊りいい
田から畑から 田から畑から
野山から 野山から 野山から
チョコサイコラホイ
1. 何を思案か有明山に
小首傾げて 小首領げて
出たわらび 出たわらび 出たわらび
2. 聞いて恐ろし見て美しや
五月野に咲く 五月野に咲く
鬼つつじ 鬼つつじ 鬼つつじ
3. 一夜 穂高のわさびとなりて
京の小町を 京の小町を
泣かせたや泣かせたや泣かせたや
4. 小梨平でひらいた恋は
花のお江戸で 花のお江戸で
実を結ぶ 実を結ぶ 実を結ぶ
5. 嬉し恥ずかし大町リンゴ
紅い顔して 紅い顔して
主を待つ 主を待つ 主を待つ
6. ござれ紅葉の色づく頃は
お湯をたずねて お湯をたずねて
高瀬谷 高瀬谷 高瀬谷

<30> 木曾節

1. 木曾のナー ナカノリサン
木曾の御岳山はナンジャラホイ
夏でも寒い ヨイヨイヨイ
2. あわせナー ナカノリサン
あわせやりたやナンジャラホイ
足袋を添えて ヨイヨイヨイ
ヨイヨイヨイのヨイヨイヨイ
3. 裕ナー ナカノリサン
裕ばかりはナンジャラホイ
やられもせまいヨイヨイヨイ
4. 襦袢ナー ナカノリサン
襦袢仕立ててナンジャラホイ
足袋を添えて ヨイヨイヨイ

10. 緑男児は浮気じゃないが
明日はいずこの壁で寝る へイ

11. ヒマラヤうんマン尺ホキホキ登れば
月のお山に手が届く へイ

7. 昨日四谷で今日黒菱で
明日は五竜か 明日は五竜か
不帰岳か 不帰岳か 不帰岳か

8. イワナ釣る子に 山路を問えば
雲の彼方を 雲の彼方を
竿で指す 竿で指す 竿で指す

9. ザイルかついで穂高の山に
明日は男の 明日は男の
度胸試し 度胸試し 度胸試し

10. 槍で別れた高瀬と梓
めぐり逢うのが めぐり逢うのが
おしの崎 おしの崎 おしの崎

<31> かあさんの歌
窪田聡作詞・作曲

1. かあさんが夜なべして
手袋編んでくれた
木枯らし吹いちゃ冷たかろうて
せっせと編んだだよ
ふるさとの便りが届く
囲炉裏の匂いがする
2. かあさんが麻糸つむぐ
一日つむぐ
おとうは土間で 藁うち仕事
お前もがんばれよ
ふるきとの冬は厳しい
せめてラジオ聞かせたい
3. かあさんのあかぎれ痛い
生味噌すりこむ
根雪が解けりゃ もうすぐ春だよ
鳥が待っている
小川のせせらぎ聞こえる
懐かしさがしみ通る

<32> もずが枯れ木で
作詞】サトウ ハチロー
【作曲】徳富 繁

1. もずが枯れ木で鳴いている
おいらは藁をたたいてる
綿びき車はおばあさん
コットン水車もまわってる
2. みんな去年と同じだよ
けれども足んねえのがある
兄きの薪割る音がねえ
バツサリ薪割る音がねえ
3. 兄きは満州へ行っただよ
鉄砲が涙で光っただよ
もずよ寒いと鳴くがよい
兄きはもっと寒いだろ

<33> 惜別の歌
作詞：島崎藤村
作曲：藤江英輔

1. 遠き別れに耐えかねて
この高樓に登るかな
悲しむなかれ 我が友よ
旅の衣を ととのえよ
2. 別れを言えば昔より
この人の世の常なるを
流るる水を眺むれば
夢恥ずかしき涙かな
3. 君がさやけき眼の色も
君 虹の唇も
君が緑の黒髪も
またいつか見ん この別れ
4. 君が優しき慰めも
君が楽しき歌声も
君が心の琴の音も
またいつか聞かん この別れ
5. 君の行くべき山川は
落つる涙に見えわかず
袖のしぐれの冬の日
君に贈らん 花もかな

<34>わが山小屋

アメリカ民謡

山並み見渡す 牧場の小屋は
懐かし我が 憩い屋よ

ウシも馬もわれに近いよれば
さみしさ 苦勞ならぬ

大空には 荒鷺舞うも見え
丘には カモシカ駆ける

ラララ
自然を 我が友とし 暮らす身は
悩みもなく いと楽し

<35>心の窓に灯をの替え歌

歌手 ザ・ピーナツ

作曲 中田喜直

変曲 36年度 広大山岳部冬山合宿

1. 今日も吹雪に 明け暮れる
タンネの林も スッポリと
雪に埋もれた 槍平
飢えと寒さで震えてる
今日で5日の食い延ばし
ほら、ピンチ食も浮かんでくるでしょう
2. 深い新雪 腰を埋め
担ぐリュックの 重たさに
泣けてくるよな 歩荷だけど
凍える両手にピッケルを
握って仰ぐ 槍ヶ岳
ほら、朝日も昇って 来るでしょう
3. 槍の肩に 夕闇が
訪れ小屋に 灯が灯る
常念の彼方にや チラホラと
町の灯りが 光ってる
あれは松本、大町か
ほら、故郷が 恋しくなるでしょう

<36>うるわし春よ

作曲 ルビンシュタイン

作詞 津川 圭一

<春に>

うるわし春よ 緑に燃えて
歌声響く 野に山に
(繰り返し)
ラララララララ
(繰り返し)

<秋に>

うるわし秋よ 紅葉に生えて
歌声響くのに山に
(繰り返し)
ラララララララ
(繰り返し)

< 37 > Red rier valley

アメリカ民謡

From this Valley they say your going
We will miss your bright eyes and sweet
smile
For they say you are taking the sunshine
That has brightend our pathway a while

Come and sit by my side if you love me
Do not hasten to bid me adieu
But remember the Red River Valley
And the girl that loved you so true

Won`t you think of the valley

Your`re leaving

Oh how lonely, how sad it well be?

Oh think of the fond heart you`re
breaking

And the grief you are causing to me

As you go to your home by the ocean

May you never forget those sweet hours

That we spent in the Red River Valley

And the love we exchanged mid
the flowers

< 38 > レッドリバーヴァリー

(1) 住み慣れしこの谷を 君は 今去り行く
疲れし身やすらうと 別れ行くか 君よ
君が優しき 言葉 待ち焦がれし

幾日(いくひ)

今は空しく消ゆる 我が心の望み
しばし留まりたまえ 別れをば惜しまん
忘るなよレッド・リバー・バレー
君慕う カウボーイを

(2) 君が言葉待つ身に 応(こた)えは冷たく
身は君に捧げんと 我 心に誓う
谷に残る 心の 痛みを 君知らば
旅はつれなからんを 君 思い出せよ
しばし留まりたまえ 別れをば惜しまん
忘るなよレッド・リバー・バレー
君慕う カウボーイを

< 39 > 五木の子守歌

お座敷唄

- 1 おどま盆ぎり盆ぎり盆から先きおらんと
盆が早よくりゃ 早よ戻る
- 2 おどま勸進勸進^[1] あん人たちやよか衆
よか衆やよか帯 よか着物
- 3 おどんがうっ死んだちゆうて誰が泣いて
くりよか
うらの松山 蝉が鳴く
- 4 蝉じゃござせん 妹でござる
妹泣くなよ 気にかかる
- 5 おどんがうっ死んだら 道端ちやいける
通る人ごち 花あぎゆう
- 6 花は何んの花 つんつん椿
水は天から もらい水

正調・五木の子守唄

- 1 おどまいやいや 泣く子の守りにや
泣くといわれて 憎まれる
- 2 ねんねした子の かわいさむぞさ
起きて泣く子の 面憎さ
- 3 ねんねいっぺんゆうて 眠らぬ奴は
頭たたいて 尻ねずむ
- 4 おどんがお父つあんな あん山やおらす
おらすともえば 行こごたる

< 4 0 > わが山の家 (山こそわが家)

MY Mountain Home

ドイツ民謡

訳詞 串田 孫一

夏には山に行こう 山こそわが家
青い鳥が鳴き 暁知らずよ
お花畑には 野バラ咲いてる
胸の思い唄えば 木霊が返す
うるわし楽し山こそ 憧れのわが家

< 4 1 > かみともにいまして

讚美歌 4 6 5

1. 神ともにいまして ゆく道をまもり、
あめの御糧もて 力をあたえませ。
(くりかえし)
また会う日まで、また会う日まで、
かみのまもり 汝が身を離れざれ。
2. 荒野をゆくときも 嵐し吹くときも、
ゆくてをしめして、たえず導きませ。
(くりかえし)
3. 御門に入る日まで、いつくしみひろき
み翼のかげに たえずはぐくみませ。
(くりかえし)

< 4 2 > しゃれこうべと大砲

(イタリア民謡)

日本語詞：東大音感合唱団

- 1 大砲の上に しゃれこうべが
うつろな目を ひらいていた
しゃれこうべが ラララいうことにゃ
鐘の音も 聞かずに死んだ
- 2 雨にうたれ 風にさらされて
空のはてを にらんでいた
しゃれこうべが ラララいうことにゃ
おふくろにも 会わずに死んだ
- 3 春が来ても 夏が過ぎても
誰も花を たむけてくれぬ
しゃれこうべが ラララいうことにゃ
人の愛も 知らずに死んだ

< 4 3 > アルペン数え唄

作曲 不詳

作詞 隆 富士雄

一つデッタワイの ヨッサホイのホイ
人にゃ言えない この胸のうち
山があるから 登るのさ ホイのホイ

二つデッタワイの ヨッサホイのホイ
冬は雪山 夏ア岩登り
山は男の 腕だめし ホイのホイ

三つデッタワイの ヨッサホイのホイ
水の流れと おいらの山は
どうせ気まかせ 足まかせ ホイのホイ

四つデッタワイの ヨッサホイのホイ
夜の夜中に カンテラさげて
登りゃ朝日が 目を覚ます ホイのホイ

五つデッタワイの ヨッサホイのホイ
粋なチロルで ザイルを肩に
行くよ穂高は ジャンダルム ホイのホ

六つデッタワイの ヨッサホイのホイ
娘心と お山の天気
煙ると思えば また曇る ホイのホイ

< 4 4 > [山の歌]

作詞 作曲 清水 脩

1. 山よ お前の ふところは～
山の 男の ふるさとよ～
うれしい時は 山へ行(1)く
さびしくなれば 尾根歩き～

2 山よ お前は 愉(タノ)しそう～
ピークで叫ぶ ヤッホーを～
忘れずすぐに こだまして～
山の仲間と 呼びかわす～

3 山よ お前の あで姿～
岩場、草付き、雪溪も～
みんなお前の 肌の色～
抱いてもみたい 肌ざわり～

4 山よ お前は もの言わぬ～
けれど代わりに ぼくたちが～
明日(アス)はいよいよ アタックと～
ヒュッテの便り しておこう～

5 山よ お前が 隠しても～
歯をむくような ガレ場なら～
それがお前の しぶい顔～
雪崩が残した 爪の跡～

< 4 5 > おおブレネリ

スイス民謡

作詞 松田 稔 東大音感

(1) おおブレネリ あなたのお家はどこ
私のお家は スイツランドよ
綺麗(キレイ)な湖水の ほとりなのよ

ヤッホ～ ホトララララ
ヤッホ ホトララララ
ヤッホ ホトララララ
ヤッホ ホトララララ
ヤッホ～ ホトララララ
ヤッホ ホトララララ
ヤッホ ホトララララ ヤッホホ

(2) おおブレネリ あなたの仕事は何
私の仕事は 羊飼(ヒツヅ)かいよ
狼(オカミ)出るので 怖(コウ)いのよ

* (繰り返し)

(3) おおブレネリ 私の腕をごらん
明るいスイスを 作るため
狼必ず 追い払う
* (繰り返し)

七つデッタワイの ヨッサホイのホイ
なぜに冷たい 剣(ツギ)の岩場
ザイルさばきの 手が鈍る ホイのホイ

八つデッタワイの ヨッサホイのホイ
槍の頭で 小キジを打て
高瀬・梓と 泣き別れ ホイのホ

九つデッタワイの ヨッサホイのホイ
今度来る時ア 笑っておくれ
山よごきげん さようなら ホイのホイ

十でデッタワイの ヨッサホイのホイ
止めてくれるな 男の心
山につかれた 俺達さ ホイのホイ

6 山よ お前の 優しさは～
テラスの空の 星のように～
テントの窓から 忍び込む～
小屋の窓から 降ってくる～

7 山よ お前の きびしさは～
霧と雨との 捲(マ)き返し～
風と吹雪の うなり声～
おそう白魔の 大雪崩れ～

8 山よ お前よ さようなら～
たき火の煙り 消え な いで～
林を抜けて 頂上(イダキ)へ～
別れの言葉 告げてくれ～

9 山よ お前よ いつまでも～
ぼくは お前を 忘れまい～
お前も ぼくを忘れずに～
お前も ぼくを忘れずに～

山よ 山よ
お前も ぼくを 忘れずに～

(4) おおブレネリ ごらんよ
スイツランドを
自由を求めて 立ち上がる
たくましいみんなの 足取りよ

* (繰り返し)

< 4 6 > 岳人の歌

作詞、作曲 不詳

- (1) 星が降るあのコル グリセードで
あの人には来るかしら 花をくわえて
アルプスの恋歌 心ときめくよ
懐かしの岳人 やさし彼(か)の君
- (2) 白樺にもたれるは いとし乙女か
黒百合の花を 胸に抱いて
アルプスの黒百合 心ときめくよ
懐かしの岳人 やさし彼の君

< 4 7 > 知床旅情

作詞:作曲 森繁 久弥

- (1) 知床(シトコ)の岬に はまなすの咲く頃
思い出しておくれ 俺達のことを
飲んで騒いで 丘に登れば
遙か国後(クナシ)に 白夜(ビヤクヤ)は明ける
- (2) 旅の情けか 酔うほどに さまよい
浜に出てみれば 月は照る波の上
今宵こそ君を 抱きしめんと
岩影に寄れば ピリカが笑う
- (3) 別れの日には来た 羅臼(ラウス)の村にも
君は出て行く 峠を越えて
忘れちゃ嫌だよ 気まぐれ烏(カス)さん
私を泣かすな 白いカモメよ
白いカモメよ

< 4 8 > 瀬戸の花嫁

作曲 平尾 昌晃

作詞 山上 路夫

瀬戸は日暮れて 夕波小波
あなたの島へ お嫁にゆくの
若いと誰もが 心配するけれど
愛があるから 大丈夫なの
段々畑と さよならするのよ
幼い弟 行くなと泣いた
男だったら 泣いたりせずに
父さん母さん 大事にしてね

岬まわるの 小さな船が
生まれた島が 小さくなるわ
入江の向こうで 見送る人たちに
別れつげたら 涙が出たわ
島から島へと 渡って行くのよ
これからあなたと 生きてく私
瀬戸は夕焼け 明日も晴れる
二人の門出 祝っているわ

< 49 > 竹田の子守歌

京都民謡

守も嫌がる 盆から先にゃ
雪もちらつくし 子も泣くし

盆が来たとして 何嬉しかろ
かたびらは無し 帯は無し

この子よう泣く 守をばいじる
守も一日 やせるやら

はよも行きたや この在所こえて
向こうに見えるは 親のうち
向こうに見えるは 親のうち

< 50 > 旅の歌

作曲 宇田 博

(1) 今日も 静かに暮れて
ヒュッテに 灯(トモビ)ともる
囲炉裏囲み 思い果てなし
明日(アタ)は はずこの峰か

(2) 哀れ 儂(ハナ)き旅よ
人は 皆旅人か
何を嘆き 何をかいたむ
憧れの 峰越えて

(3) 夢は 昔に帰り
縁(エシ) 山川をなし
そぞろ一人 浮き寝の旅路
明日は はずこの峰ぞ

< 51 > 人を恋うる歌

作曲 不詳

作詞 与謝野 鉄幹

(1) 妻をめとらば 才たけて
みめ美(ウツ)しく 情けある
友を選ばば 書を読み
六分(リクブ)の俠気 四分(シブ)の熱

(2) 恋の命を たずぬれば
名を惜しむかな 男ゆえ
友の情けを たずぬれば
義のあるところ 火をも踏む

(3) 汲めや美酒 うたひめに
乙女の知らぬ 意気地あり
簿記の筆とる 若者に
まことの男 君を見る

(4) あわれダンテの 奇才なく
バイロン、ハイネの 熱なきも
石を抱きて 野に歌う
芭蕉のさびを 喜ばず

< 5 2 > 山の一曰

ドイツ学生歌

作詞 山本 学治

(1) 明るくたのしい 山の一曰
朝日といっしょに歩きだし
あの山この峰よじのぼり
夜はみんなでうたおうよ

(2) 暗い悲しい 山の一曰
そぼふる雨にぬれながら
あの谷この沢やぶをこぎ
それでも元気でうたおうよ

< 5 3 > 山の人気者

作詞 作曲 Leslie Sarony

訳詞 中野 忠晴

1) 山の人気者 それはミルク屋
朝から夜まで 歌を振り撒く
牧場は広々 声は朗らか
その節の良さは アルプスの花
娘という娘は ユーレイティ
フラフラと ユーレイティ
ミルク売りをしたい ユーレイティ
ユーレイ ユーレイティ
ラララ さすがは喉自慢 すごい腕前
乳搾るほかに招き寄せて
娘たちを惑わせる

(2) 山のミルク屋は いつも朗らか
乳搾る間も 歌を忘れず
のどかな歌声 丘より谷へ
アルプスの峰に こだまを返す
娘という娘は ユーレイティ
フラフラと ユーレイティ
ミルク売りをしたい ユーレイティ
ユーレイ ユーレイティ
ラララ ミルク屋が来れば
山の娘は 機(ハタ)織る手を休め
窓の外 通る歌に聞き惚れる

< 5 4 > エレメンタール美わし

アルプスの谷間

スイス民謡

(1) エンメンタール美わし我がふるさとよ
そびゆる山脈(ヤマミ) 白銀(シロガネ)の雪

フディリアドゥイ アイリアホ
フディリアドゥイ アイリアホ
フディリアドゥイ アイリアホ
フディリアドゥイ アイホ

(2) 高嶺(タカネ)に花咲き 雲は流れて
ひねもす のどけき 我がふるさとよ

フディリアドゥイ アイリアホ
フディリアドゥイ アイリアホ
フディリアドゥイ アイリアホ
フディリアドゥイ アイホ

< 5 5 > 雪山に消えたあいつ

作曲 上條 たけし

作詞 沢ノ井 千江兒

- (1) 山が命と 笑ったあいつ
山を一番 愛したあいつ
雪の穂高よ 答えておくれ
俺に一言 教えておくれ
なんで吹雪に あいつは消えた
- (2) 重いザイルを 担いだあいつ
銀のピッケル 振ってたあいつ
山をこの俺 恨みはせぬが
あんないい奴 どこにもいない
なんで吹雪に あいつは消えた
- (3) 夢に破れて 帰らぬあいつ
雪に埋れて 眠ったあいつ
山の木霊よ 返しておくれ
俺にも一度 やさしい笑顔
なんで吹雪に あいつは消えた

< 5 6 > 若者たち

作曲 佐藤 勝

作詞 藤田 敏雄

君の行く道は 果てしなく遠い
だのになぜ 齒をくいしばり
君は行くのか そんなにしてまで

君のあの人は 今はもういない
だのになぜ 何をさがして
君は行くのか あてもないのに

君の行く道は 希望へと続く
空にまた 日が昇るとき
若者はまた 歩き始める

空にまた 日が昇るとき
若者はまた 歩き始める
若者はまた 歩き始める

< 5 7 > 若い力

1947年～第2回国民体育大会

作曲 高田 信一

作詞 佐伯 孝夫

若い力と感激に
燃えよ若人胸を張れ
歡喜あふれるユニホーム
肩にひとひら花が散る
花も輝け希望に満ちて
競え青春 強きもの

薫(か)る英気と純情に
瞳明るいスポーツマン
僕の喜び君のもの
上がる凱歌に虹がたつ
情け身にしむ熱こそ命
競え青春 強きもの

<58> 五番街のマリーへ

作曲 都倉 俊一

作詞 阿久 悠

五番街へ行ったならば マリーの家へ行き

どんなくらし しているのか

見てきてほしい

五番街は古い町で 昔からの人が

きっと住んで いると思う

たずねてほしい

マリーという娘と 遠い昔に暮らし

悲しい思いをさせた それだけが気がかり

五番街でうわさを聞いて

もしも嫁に行つて

今がとてもしあわせなら 寄らずにほしい

<59> 遥かな友に

作曲 磯部 俣

作詞 磯部 俣

(1) 静かな夜更けに いつもいつも

思い出すのは お前のこと

お休み 安らかに たどれ 夢路

お休み 楽しく 今宵もまた

(2) 明るい星の夜は 遥かな空に

思い出すのは お前のこと

お休み 安らかに たどれ 夢路

お休み 楽しく 今宵もまた

(2) 寂しい雪の夜は 囲炉裏(イリ)の端で

思い出すのは お前のこと

お休み 安らかに たどれ 夢路

お休み 楽しく 今宵もまた

参考 歌の伴奏はここにあります。 http://momo1949.hobby-web.net/mm/mount_midi.html

